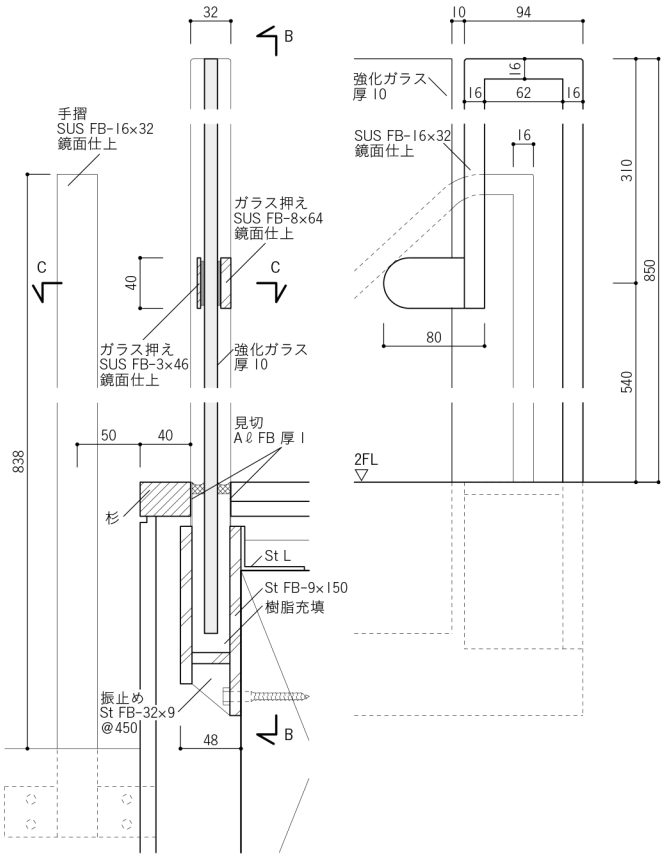
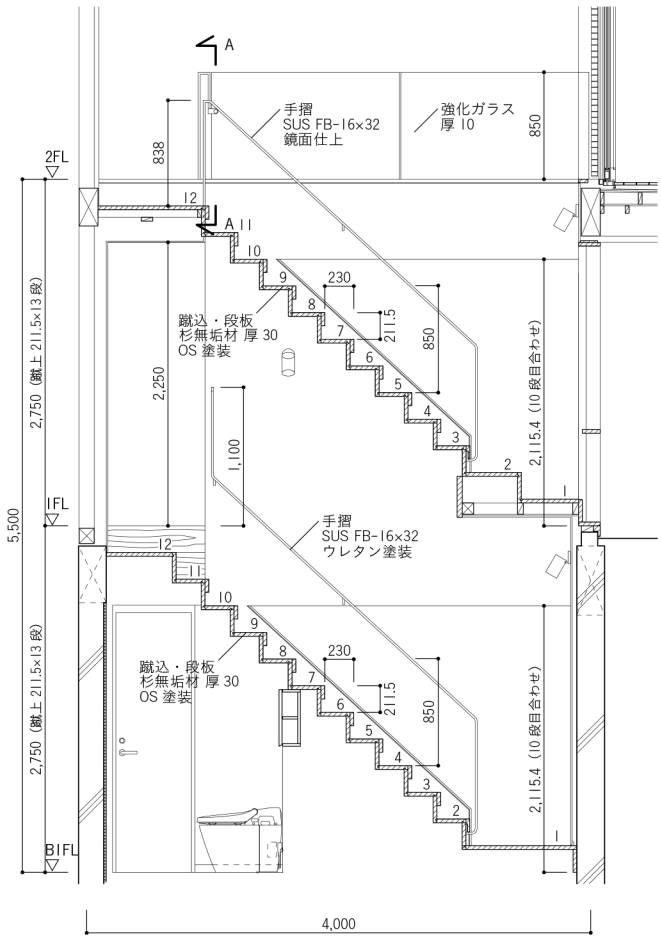
動作と空間の要としての手掛け

八雲の家　矢板建築設計研究所

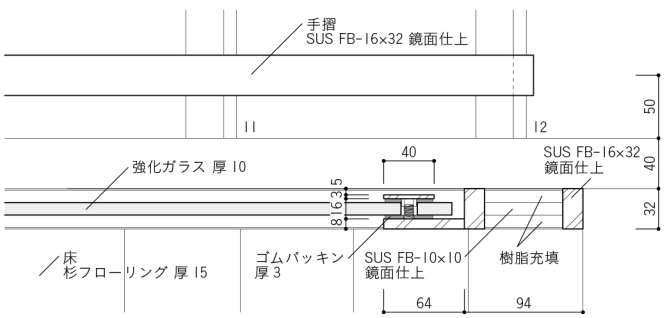
構造設計／構造設計社　施工／日祥工業　手摺製作／川越工業　竣工／2011年8月　所在／東京都目黒区　撮影／新建築写真部



A-A 断面詳細　1／6　　B-B 立面詳細　1／6



断　面　1／60



C-C 平面詳細　1／6

この手摺は，階段を上りきった２階部分にあり，強化ガラス手摺の端部にステンレスのフラットバーの手摺が取りつけられたものである。このガラスと並んだステンレスの手摺は，現場の終盤になり，階段部分の斜めの手摺が取りつけられた後，急遽追加した経緯がある。この階段は上りきった部分が床面から１段下がった位置に踊り場状の段として終わっており，傾斜部分の手摺高さが２階床からだと低すぎ，階段へ回り込みながら下りる際の手掛けとなるものが必要なことがわかった。

そこで，下りる際の体の回転の中心になるよう，ガラス手摺の端部に，スチールのポケットに樹脂を充填して取りつける方法で，手摺と同じバフ800番の鏡面仕上げとしたステンレスの無垢材の手掛けを追加した。その結果，動きの中心となる手掛けとしての機能だけでなく，空間の重要な要となってくれた。（矢板久明）